



前県議員

木佐木 ただまさ

日本共産党
見解を紹介します

news

Profile

・1984年山口県出身
・鶴見区馬場在住・神奈川大
学法学部卒、横浜健康友の
会会長、横浜東民商顧問

安心して暮らせる神奈川県へ

…日本共産党県議団 上野県議が代表質問

12月1日神奈川県議会の代表質問に上野たつや県議（神奈川区選出）が立ちました。

保育園で管理栄養士として働いていた上野県議の今回の質問のテーマは「安心して子どもを産み、育て、働き、生活できる神奈川県」。妊娠・出産、教育、労働、営業の分野で質問をしました。

福祉・医療分野の学生へ

県独自に負担軽減策を…上野質問

今回は、「県立保健福祉大学に通う学生の学費負担の軽減について」紹介したいと思います。県立保健福祉大学は、質の高い保健・医療・福祉のため人材養成と研究を掲げ、看護師や栄養士、理学療法士や作業療法士といった資格を目指すことのできる大学です。

上野県議は、「コロナ禍や物価高騰により学生の生活が厳しい中、大学が独自に学生への支援を努力する一方で、県独自には学生への支援が一切されなかったこと」を指摘し、「運営費交付金の使い方次第では、学費の負担軽減も可能であることが示され、あとは県として学生への支援をするかどうかの姿勢次第」であり「県立保健福祉大学への運営費交付金を拡充することで、学生の入学金や授業料の負担軽減につなげる必要がある」と知事を質しました。

学生一人一人への負担軽減考えていない

…知事答弁

すると知事からは「県は県立保健福祉大学の運営のため入学金授業料収入の数倍にあたる運営費交付金を交付しています。こうしたことから現状では学生の入学金や授業料の軽減を目的



質問後に傍聴者と懇談する党県議団

とした運営費交付金の増額は考えていません。」と必要性を問われているのに、出すいわれはないとばかりにあまりに冷たい答弁で傍聴席は啞然としていました。

コロナ禍で神奈川県は全国に先駆けて「自主療養」を打ち出しましたが、それは看護師、病院数、ベット数が全国最低水準という状況も大きな要因です。医療や福祉を支える人材を必要とする本県で県立の医療や看護の学校で学ぶ生徒を応援することは、学生個人ではなく社会全体の利益になります。公の責任を見誤っている黒岩県政に唯一モノ申すことのできる共産党の役割の大きさを改めて肝に銘じました。

ただまさヒストリー

「YOUは何しに学校へ!？」

私は、一人っ子ということもありマイペースで育ってきました。共働きの両親のもとで一人遊びで時間をつぶすことも多く、できないことよりもできたことをほめてくれる両親だったので、細かい失敗を気にしませんでした。そんな私でも、その失敗はないだろうと改めることがありました。ある日、登校途中に母親が血相を変えて車で追いかけて忘れ物を届けてきたのですが、それはランドセルでした。。。集団登校だったので、周りのみんなも指摘してくれたりいいのに。この失敗は学生になるまで父親に弄られることになりましたが、さすがにこれほどの忘れ物をすることはありませんでした。